

令和6年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
地歴公民科	1 ICTを活用した授業づくり	(1) 写真や地図の拡大・縮小、画面への書き込み、映像視聴等から理解力を高める。 (2) タブレットを活用し、積極的に協働学習を行い、思考力、判断力、表現力等を育成する。	A	A	<p>1 (1)(2)主にロイロノートを用い、視聴覚授業や生徒の意見を共有するなど、生徒が受け身にならない工夫をした。次年度以降も、引き続きタブレットを使用した授業展開を実践していく。</p> <p>2 (1)定期考査では、時事問題を取り入れ、普段から時事に関心を持てるような働きかけを行った。また、社会的な事象を取り上げた際には、論述させるなどの工夫を凝らした。次年度以降も継続して行う。</p> <p>2 (2)受験科目又は大学進学時の課題等で特に必要な生徒には個別に問題演習を行うなど、個々に合わせた取り組みを行った。次年度以降も継続して行う。</p> <p>3 (1)大学入学共通テストを踏まえ、傾向や対策について教科内で共有し合う必要がある。</p> <p>3 (2)各教員2回の研究授業を実施した。各コースの特性を踏まえ、生徒が主体的に参加できる授業を考えていく。</p>
	2 進路目標に応じた受験指導	(1) 身近な社会的事象を題材として扱い、その原因と問題解決について分析し、筆記試験だけでなく、面接試験や小論文試験にも対応できる力を身につける。 (2) 演習授業や課外授業、個別指導などを行い、生徒の進路目標に応じた学力を育成する。	A		
	3 教員の指導力向上	(1) 大学入学共通テストの過去問題から、求められる力を分析し、授業に反映する。 (2) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		